

令和7年度 3学年国語科 年間指導計画

単元	配当 時間数	学習活動など	評価
世界はうつくし いと	1	1 詩を音読する。 2 詩を読み深める。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・自分なりの解釈を踏まえて、詩を朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【態】 進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
1 深まる学び へ 握手 漢字に親しもう 1	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 2 作品の設定を捉える。(課題1) 3 登場人物の心情や人物像を読み取る。 4 読み深めた感想を交流する。(課題3) 5 学習を振り返る。 6 P28「漢字に親しもう1」の新出漢字を確認する。 7 練習問題に取り組む。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) 【態】 物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。 【知・技】 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア)
1 深まる学び へ 【聞く】 意見を聞き、適切 さを判断する	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。 ・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。 ・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。 2 スピーチをよりよくするための助言を考える。 ・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。 ・自分で考えた助言を友達と共有する。 3 学習を振り返る。 ・相手の意見を聞き、適切さを判断するために、どのような点に注意して聞いたかを挙げる。	【知・技】 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 【態】 聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
1 深まる学び へ 文法への扉1 「走って」いる のは誰？ 文法1 文法を 生かす	1	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組む、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。 ・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。 2 P230「文法1 文法を生かす」を読む。 ・文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。	【知・技】 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) 【態】 助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
1 深まる学び へ 説得力のある 構成を考えよう スピーチで心を 動かす	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決め、情報を集める。 2 話の構成を考える。 3 スピーチの会を開く。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。 【態】 相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
1 深まる学び へ 言葉1 相手や場に応 じた言葉遣い	1	1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつ。 2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。 3 相手や場に応じた表現について理解する。 4 学習を振り返る。	【知・技】 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →実際に敬語を使う場面を想定しながら相手や場に応じた表現を考え、敬語について理解を深めている。 【態】 相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
1 深まる学び へ 学びて時に之 を習ふ、 ——「論語」か ら 漢文の訓読	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「論語」について知る。 2「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
2 視野を広 げて 作られた「物 語」を超えて	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 2 論理の展開を捉える。 3 筆者の主張を捉える。(課題2) 4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 【態】 進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

2 視野を広げて 思考のレッスン 具体化・抽象化	1	1 P52の教材文を通読する。 2 P53の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】 具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
2 視野を広げて 漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう2	1	1 P58導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組む。 4 P60「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。	【知・技】 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
言葉とともに 俳句の可能性 [書く]俳句の創作教室 俳句を味わう	4	1 俳句の特徴を確認する。 2 筆者の評価のしかたを捉える。(課題2) 3 好きな俳句を選び、鑑賞文を書く。 4 学習を振り返る。 5 P66「俳句の創作教室」に取り組む。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) 進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
言葉とともに 言葉の釣り糸を垂らす	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 2 題名の意味を捉える。(課題1) 3 筆者のものの見方や考え方について考える。 4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) 【態】 筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
言葉とともに 言葉2 和語・漢語・外来語 語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化	1	1 P72導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。 2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。 3 言葉の変化について知る。 4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。((3)ウ) 【態】 進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
情報×SDGs 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	2	1 P76「やってみよう」①に取り組む。 2 P77「やってみよう」②に取り組む。 3 P78-81の報道文 A・B を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】 情報の信頼性の確かめ方を積極的に使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
情報×SDGs 情報整理のレッスン 情報の信頼性	2	1 P84の教材文を通読し、問題1に取り組む。 2 P85の教材文を通読し、問題2に取り組む。 3 学習を振り返る。	【知・技】 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) 【態】 積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
いつも本はそばに 読書を楽しむ	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2『『私の一冊』の紹介』、「ブックレビュー」,「三年間の読書の振り返り」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【態】 進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
いつも本はそばに 「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと？	1	1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味がもてそうな本を探す。 3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。
4 状況の中で 挨拶 ——原爆の写真によせて	2	1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。 2「顔」が象徴しているものを捉える。(課題1) 3 表現の効果を評価する。 4 自分の意見を述べる。(課題3)	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。

4 状況の中で故郷	6	1 作品を通読し、作品の設定を捉える。 2 場面や登場人物の設定に着目して読み深める。 3 読み深めたことを基に、作品を批評する。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
4 状況の中で[推敲]論理の展開を整える	2	1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。 2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。 3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。 4 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) 【態】 目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。
4 状況の中で言葉3	1	1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。 2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。 ・慣用句を使って短文を作る。 ・ことわざや故事成語の意味を調べる。 ・P123「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。 3 学習を振り返る。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【態】 慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。
4 状況の中で聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対談の準備をする。 2 対談を行う。 3 学習を振り返る。	【知・技】 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →話し手や聞き手が、対談の中で、適切な言葉遣いをしている。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】 話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。
4 状況の中で漢字2 漢字の造語力	1	1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。 2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 自らの考えを複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	3	1 3人の筆者の提言を通読する。 2 文章の要旨を捉える。(課題1) 3 文章を比較して評価する。 4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。 5 学習を振り返る。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) 【態】 三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
5 自らの考えを 考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く	5	1 題材を選ぶ。 2 観点を決めて分析する。 3 批評文を書く。 4 友達と文章を読み合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) 【態】 自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
5 自らの考えを漢字に親しもう3 文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 文法2 文法のまとめ	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 3 P141「文法への扉2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。 4 P233「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。	【知・技】 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) 【態】 今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。 【知・技】 単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) 【態】 単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
5 自らの考えを聴きひたる 初恋	1	1 朗読音声聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
6 いにしえの心を受け継ぐ 和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序	1	1 P146「和歌の世界」を読む。 2 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。	【知・技】 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) 【態】 進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

6 いにしへの心を受け継ぐ君待つと——万葉・古今・新古今	2	1 歴史的背景を捉える。(課題1) 2 和歌の表現について話し合う。 3 表現のしかたについて評価する。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) 【態】 進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
6 いにしへの心を受け継ぐ夏草——「おくのほそ道」から	3	1 作品を声に出して読む。(課題1) 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) 【態】 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
6 いにしへの心を受け継ぐつながる古典 古典名作選 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう	1	1 P166「つながる古典」を通読する。 2 P168「古典名作選」を朗読する。 3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)
7 価値を生み出すそれでも、言葉を	2	1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。 2 筆者の見方・考え方に対する理解を深める。(課題2) 3 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 言葉や社会、人間などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて議論したり文章にまとめたりしようとしている。
7 価値を生み出す漢字3 漢字のまとめ漢字に親しもう4	1	1 二年生までに学習した漢字を復習する。 2 三年生で学習した漢字を復習する。 3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。	【知・技】 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
7 価値を生み出す【話し合い(進行)】話し合いを効果的に進めよう	2	1 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た 意見を整理する。 2 進行役の発言の効果を考える。 3 学習を振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) 【態】 積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。
7 価値を生み出す合意形成に向けて話し合おう課題解決のために会議を開く	4	1 議題を決める。 2 グループで提案を考える。 3 全体会議を開く。 ①グループごとに案を発表する。②提案を分類・整理し、観点を決めて検討する。③互いの意見を生かし、合意形成を図る。 4 合意形成のポイントを振り返る。	【知・技】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) 【態】 合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
いつも本はそばに本は世界への扉天、共に在り極夜行読書案内 本の世界を広げよう	1	1 教科書本文を読み、筆者の生き方について自分の考えをもつ。 2 P198「本の世界を広げよう」を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。
8 未来へ向かって温かいスープ	2	1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。 2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。 3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 人間、社会などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
8 未来へ向かってアラスカとの出会い	2	1 全文を通読する。 2 筆者の生き方や考え方を読み取る。 3 筆者の生き方や考え方について話し合う。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
8 未来へ向かって律儀な桜	1	1. 文を通読する。 2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり、考えを伝え合ったりしようとしている。

8 未来へ向かってわたしを束ねないで	1	1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
8 未来へ向かって三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	4	1 冊子のテーマを決める。 2 冊子の内容と構成を考える。 3 冊子を作る。 4 グループで発表会を開く。 5 学習を振り返る。	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) 【態】 粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
8 未来へ向かって 初日 漢字に親しもう 5	2	1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 3 P226「漢字に親しもう5」の練習問題に取り組む。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) 【態】 詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値について考えをまとめようとしている。 【知・技】 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
学びを深める 国語の力試し	8	1 P243～246の問題に取り組む。 2 P242の二次元コードから、発展問題に取り組む。 3 振り返る。	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】 粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。
書写	10	1硬筆 ・書写テストに挑戦しよう ・行書の復習 ・都道府県の名前を練習しよう ・年賀状の書き方 2毛筆 ・書き初め	【知・技】 ・ユニバーサルデザインフォントの特徴を知ったり文字文化の豊かさへの理解を深めている。 【態】 ・今までの学習した知識・技能を生かし、目的に応じて効果的に文字を書こうとするなど、生活に生かそうとしている。